

(目標年次 平成29年)

1 計画策定の背景

(1) 県土の概要

(2) 経済社会状況の変化

人口減少時代・少子高齢社会の到来 経済の安定成長とグローバル化・情報化の進展 深刻化する環境問題 安全・安心な暮らしの確保の必要性
 自然環境・良好な景観への意識の高まり 地方分権、住民参加の進展、市民活動の活発化 厳しい県財政

(3) 土地利用の動向等

農地・森林から宅地等への土地利用の転換の動きの低下
 人口減少・高齢時代の到来、産業の高付加価値化・サービス化、社会の成熟化等
 県土の質的な向上・有効利用の重要性の高まり
 県民の豊かで安全な暮らし、持続的な発展

(4) 県土利用をめぐる諸課題

農地・森林の減少、耕作放棄地・荒廃森林の増加 自然環境の減少・劣化
 産業廃棄物の不法投棄 山砂採取跡地の景観 中心市街地の活性化等

2 計画の基本目標

県民一人ひとりが、豊かさを実感し愛着を持って暮らし、地域が個性や特色を生かしながら発展を続けていくことのできる持続可能な県土利用を進め、次の世代へ引き継いでいく

3 県土利用の基本方針

(1) 多様な主体との連携・協働による県土利用

「新たな公による地域づくり」の促進、市町村との緊密な連携

(2) 土地需要の量的調整

都市的土地利用

県全体としては鈍化が見込まれるものの、T X沿線等においては、計画的に良好な市街地を形成

自然的土地利用

地球温暖化防止、自然循環システムの維持、生物多様性の確保等に配慮しつつ、農地・森林等の適切な保全と耕作放棄地等の有効利用の促進

(3) 県土の質的向上・有効利用

健全な循環が維持され、地球温暖化を防止する社会の構築

再生可能エネルギーの利用や資源の効率的利用・再生利用を進める資源循環型社会システムへの転換
 温室効果ガスの排出量の削減等、地球温暖化を防止する社会の構築
 健全な自然の物質循環の機能を果たす森林・農地の保全・有効利用

安全で安心できる暮らしの確保

自然災害の未然防止・発生被害の最小限化に向けたハード・ソフト両面における施策の展開、「自助」「共助」の意識・動きの強化に向けた支援
 良好な大気・水質、良質な土壌の確保
 犯罪、交通事故から県民を守る安全・安心なまちづくり

良好な景観の保全・形成

良好な景観の保全・形成に向けた仕組みの構築、景観に配慮した事業の実施
 市町村・県民が主体となる良好な景観の保全・形成の促進・支援

人と自然との共生

生物多様性が保全され、豊かでうるおいのある県土利用の推進
 人々の生活と関わりの深い里山の計画的な保全、整備、活用
 都市的土地利用と自然的土地利用の調和を図る集約型都市構造への転換

地域の多様性・魅力を生かした活力の創出

農林水産業・商工業・観光産業等の地域産業の振興
 広域的な交通ネットワーク・情報通信網の整備・活用の促進
 時代の変化に対応した活力あるまちづくり・地域づくりの促進

世界に開かれた県土利用

国際性を有する拠点地域(成田、柏・流山、幕張、かずさ等)の整備
 外資系企業の誘致、農林水産物の海外市場開拓、国際観光の振興

(4) 県土利用の総合的なマネジメント

本計画に基づく多様な主体との連携・協働による施策の推進
 都市、農地、森林、自然環境等に関する各種法令の適切な運用
 県土利用のモニタリング制度の活用による個別施策の検討・検証